

## 第18回 全国中学高校ディベート選手権（高校の部）で初優勝

H25.8.13.

8月10日～12日に東京・文京区にある東洋大学で行われた、第18回中学高校ディベート選手権（全国教室ディベート連盟、読売新聞社主催）において、本校が優勝しました。2010年の第15回大会では中学の部で優勝していますが、高校の部での優勝は初めてです。

論題は、「日本は首相公選制を導入すべきである。是か非か」という難しいもの。高校生にとっては実感のない政治論題です。2月の論題発表以降、メンバーは「首相の権限とは何か?」、「二元代表制になったら政治はどう変わるのか?」、「長期政権になったら外交では有利なのか?」・・・など、ふだん考えたことがない問いに振り回されながら、議論を考えてきました。

全国大会では予選リーグにおいて、能代高（秋田）、東海大付属四高（北海道）、洛南高（京都）を相手にすべて3-0で勝利。決勝トーナメント1回戦では奈良学園登美ヶ丘（奈良）を2-1、準々決勝では修猷館高（福岡）を3-2とジャッジ1票差で破り、2日目を終えました。今まで決勝トーナメントには2度進出していますが、2度とも1回戦で負けていたため、トーナメント戦での勝利は今回が初めてです。

大会3日目の午前に行われた準決勝では、慶應義塾高（神奈川）に4-1で勝利し、いよいよ午後の決勝戦へ。相手は過去3回の優勝経験を持つ強豪の東海高（愛知）でしたが、緊張の中でもメンバーそれぞれが力を発揮して、4-1で勝利し優勝することができました。さらに、第1反駁担当の佐々木瞳子さんが、ベストディベーター賞を受賞しました。

緊張の続く全国大会を通じて、生徒たちは知恵を集めてチームとして動くことを学び、確実に成長を遂げたと思います。試合の勝敗以外の部分でも、大きな収穫を得た大会でした。

